

日本コカ・コーラ株式会社が 第 14 回 読売・日テレ アドバイザー・オブ・ザ・イヤーに決定！

読売新聞社と日本テレビ放送網は、2021 年度に読売新聞と日本テレビの両媒体において、エポックとなるような顕著な広告活動を行った企業または人物を顕彰する「第 14 回読売・日テレ アドバイザー・オブ・ザ・イヤー」に日本コカ・コーラ株式会社を選出いたしました。贈賞式は 7 月 6 日（水）、東京・内幸町の帝国ホテルで行う予定です。

贈賞理由：

日本コカ・コーラ株式会社は、「Refresh the World. Make a Difference.（世界中をうるおし、さわやかさを提供すること。前向きな変化をもたらすこと。）」の企業理念のもと、製品のブランド力を生かした話題性の高い広告宣伝活動を通じ、消費者とのコミュニケーションを積極的に展開しています。

新聞では、「東京 2020 パラリンピック」開幕翌日に一面と終面の記事下をつなげた特別な広告枠を活用し、世界人口の 15%を占めるとされる障がい者を取り巻く環境を変えていくことを目指した人権運動「#WeThe15」に賛同するメッセージを発信しました。また、天然水「い・ろ・は・す」や緑茶「綾鷹」で人気キャラクターや著名人を起用し、話題性と媒体特性を生かした広告は大きな反響を呼びました。人気ライトノベルに登場するキャラクターのイラストを使った「い・ろ・は・す」の広告は、SNS で約 3850 万人にリーチし、読売新聞の「よみバズ調査」で史上最高値を記録しました。

テレビにおいては、前年を大きく上回るスポット出稿はじめ、「東京 2020 オリンピック」でのメダルテーブルやスプリットスクリーン施策への提供、トークバラエティー『しゃべくり 007』へのレギュラー提供などで積極的なコミュニケーションを展開しました。今年初開催のダンス日本一決定戦『THE DANCE DAY 2022』にもご出稿いただきました。

■読売・日テレ アドバイザー・オブ・ザ・イヤーとは

2006 年度創設。読売新聞と日本テレビの両媒体を通じて、エポックとなるような顕著な広告活動を行った企業または人物を顕彰しています。副賞は賞金 200 万円相当。

■過去の受賞社

第 1 回（2006 年度）	エヌ・ティ・ティ・ドコモ（現 NTT ドコモ）
第 2 回（2007 年度）	松下電器産業（現 パナソニック）
第 3 回（2008 年度）	キヤノン／キヤノンマーケティングジャパン
第 4 回（2009 年度）	シャープ
2010 年度	休止
第 5 回（2011 年度）	サントリーホールディングス
第 6 回（2012 年度）	トヨタ自動車
第 7 回（2013 年度）	サントリーホールディングス
第 8 回（2014 年度）	花王
第 9 回（2015 年度）	明治
第 10 回（2016 年度）	資生堂
第 11 回（2017 年度）	味の素
第 12 回（2018 年度）	ライオン
第 13 回（2019、20 年度）	大正製薬

お問い合わせ

読売新聞東京本社広告局企画営業部

龍至 江梨子

TEL:03-3216-8796

日本テレビ放送網営業局営業企画部

稲垣 眞一

TEL:03-6215-2928